

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2014年10月）

目 次

内 政

◆政党支持率調査結果 2

外 政

◆シェフチョヴィチ欧州委員候補のポスト変更 2
◆メルケル独首相のスロバキア訪問 2
◆ハモンド英外相のスロバキア訪問 3
◆V4及び西バルカン諸国外相会合 3

社 会

◆ウクライナ危機に関する意識調査 3

経 済

◆ロシア産ガスの供給減少に対する政府反応 4
◆パナソニックの撤退 4
◆最低賃金の引き上げ 4
◆スロバキア中央銀行月報（10月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆政党支持率調査結果（１０月２２日、２８日）

世論調査機関 Focus 及び Polis が 10月22日、28日に政党支持率調査の結果を公表した。「Siet」は引き続き2位を維持している。SDKUは国会の議席獲得に必要な5%にも達しない状態が続いている。

政党	Focus	Polis
Smer（方向）	35.4%	37.3%
Siet（ネットワーク）	12.2%	12.4%
KDH（キリスト教民主運動）	9.9%	7.7%
Most-Hid（架け橋）	6.9%	9.0%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	6.5%	6.9%
SMK（ハンガリー系コミュニティ党）	4.2%	5.8%

外 政

◆シェフチョヴィチ欧州委員候補のポスト変更（１０月２０日）

シェフチョヴィチ欧州委員候補は、当初、運輸・宇宙担当に指名されていたが、ブラトウシェク・スロベニア前首相が欧州議会の公聴会においてエネルギー連合担当欧州副委員長ポストへの承認を否決されたことを受け、新たに同ポストへの変更が決まった。シェフチョヴィチ候補は、20日に欧州議会での公聴会に臨み、指名が承認された。フィツォ首相は、同候補が有力なポストを得たことを高く評価した。また、スロバキア外交政策協会のビルチーク研究主任は、「エネルギー連合は、近い将来、EUの戦略的優先課題の一つになると見られている」と指摘している。

◆メルケル独首相のスロバキア訪問（１０月２０日）

メルケル独首相とキスカ大統領との会談においては、ウクライナ問題等がテーマとなり、キスカ大統領はメルケル首相に対し、スロバキアがウクライナ支援に関わるEUのすべての方策を支持することを確約した。また、EU加盟国の経済面での協力についても話し合い、各国が合意した規則を遵守すべきという点で同意した。

フィツォ首相との会談においては、10月の欧州理事会での議題となる気候・エネルギー問題について協議を行った。メルケル首相は、気候変動に関しては、EUの雇用に特別な影響を及ぼさず、競争力を維持できるものにする必要があると述べた。また、両首相は、ウクライナ情勢についても協議を行った。フィツォ首相は、ドイツと共に、対話を通じた危機の解決を目指していくことを主張した。

メルケル首相は、訪問の最後にコメニウス大学を訪れ、名誉博士号を授与された。同首相は、政界入り以前には物理及び化学を専攻し、スロバキアの科学者とも共同研究を行っていた。

◆ハモンド英外相のスロバキア訪問（10月30日）

ライチャーク副首相兼外務・欧州問題相はハモンド英外相と会談を行い、英国及びV4の観点からのEU改革等について協議した。ライチャーク外相は、「自分は英外相の訪問を、良好な二国間関係及び「V4+」協力の重要性の証明であると考えている」と述べた。また、同外相は、英国がスロバキアにとって、国際関係、外交、安全保障及び経済協力の分野における強力なパートナーであることを指摘した。

V4外相は、ハモンド英外相と共に、現在の国際情勢に関して協議を行った。V4の外相は、英国が、経済及び制度的安定化を含むEU機能の改革を想定していることに関心を示した。また、EU・米国間の包括的貿易投資協定やウクライナの選挙後の状況について議論した。最後に、各国外相は、ウクライナ情勢に関する共同声明を採択した。

◆V4及び西バルカン諸国外相会合（10月31日）

ブラチスラバにおいて、V4及び西バルカン諸国（アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、マケドニア、セルビア及びコソボ）の外相会合が開催された。会合には、モゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表及びクルツ・オーストリア外相も出席した。会合では、西バルカン諸国全体の欧州の将来にとっての重要性が確認された。会合において採択されたV4の西バルカン支援に関する共同声明では、欧州基準の達成に向けた更なる努力の必要性が強調された。

V4の外相は、西バルカン諸国首脳が西バルカン基金の設立に合意したことを歓迎した。国際ヴィシエグラード基金は、西バルカン基金設立に際し、8万ユーロ相当の支援を行うことを決定した。

社 会

◆ウクライナ危機に関する意識調査（10月10日付経済新聞）

「紛争にはまったく興味がない」。スロバキア人の半数以上が、ウクライナの現状に対して、このような無関心な態度を示しており、周辺国とはまったく異なっている。ポーランドでは、ウクライナ危機勃発後、ウクライナの領土的一体性を支持するための集会が組織され、プーチン露大統領に対する抗議も行われた。また、それほど先鋭的ではないが、チェコ人も独自の意見を有してお

り、チェコ世論調査センターによると、64%のチェコ市民がウクライナ情勢に強い関心を示し、「わからない、関心がない」と答えたのは回答者のうち5%のみであった。

経 済

◆ロシア産ガスの供給減少に対する政府反応（10月1日）

フィツォ首相は、ロシア産ガスの供給減少を受けて、スロバキア・ガス工業会社（SPP）の一般家庭及び企業向けのガス供給に問題はないことを説明した。同首相は、SPPが短期市場からガスを購入すると共に、備蓄も継続していることを付言した。

ロシア産ガス供給の完全な停止は、ロシア側にとって大きな経済的打撃となるため、現実的な想定ではないものの、フィツォ首相は、起こりうるすべての状況に対応すべく、あらゆる危機のシナリオ、可能性を考慮していくことを訴えた。また、同首相は、ウクライナへのガス逆送に関して、スロバキアは引き受けた責任を果たしていくと述べた。

◆パナソニックの撤退（10月2日付各紙）

東スロバキアは過去数年で最大規模の企業による解雇を経験することになる。日本のパナソニック（Panasonic AVC Networks Slovakia）がクロンパヒ市にあるブルーレイ及びDVDプレーヤー工場の閉鎖を決定した。工場閉鎖により来年5月までに656名が職を失うことになる。生産はチェコ・ピルゼンに移されることになり、同社は約215名の従業員に対してピルゼン工場での同等の仕事をオファーしている。ほぼ5人に1人が失業しているクロンパヒ市では、同社の従業員が同種の仕事を見つけられる可能性は高くない。従業員の間ではここ数年の間、工場閉鎖の憶測が広がっていた。2000年にドイツ工場からVHSプレーヤー生産を奪う形でスロバキアに工場が建設され、最盛期には1300名を雇用して地域全体の就業率を押し上げた。しかし、2003年に最初の解雇を実施して以後、雇用者数は減少し、工場閉鎖の決定に到ることとなった。

◆最低賃金の引き上げ（10月15日）

スロバキア政府は、最低賃金（月額）の引き上げを承認し、最低賃金は現在の352ユーロから、2015年には380ユーロへと引き上げられる。フィツォ首相は、財政健全化を達成した上で、人々の生活水準向上のためのプロジェクトを提供していくことが政府の義務であると主張した。また、最低賃金の固定化には同意せず、今後も最低賃金の上昇を後押ししていくことを訴え、経

営者が問題を抱えることになった場合には、健康保険料の値下げ等のかたちで支援していくことを付け加えた。

◆スロバキア中央銀行月報（10月）

1. GDP

ユーロ圏経済の後退は、すでにスロバキア経済にも影響を及ぼしており、徐々に景気の減速傾向が見え始めている。8月の全体の売り上げは、前期比で0.5%減となり、建設、IT・通信、民間サービスの一部が全体の売り上げを停滞させる要因となった。8月の鉱工業生産は、前期比で1%増となった。売り上げと異なり、生産は輸出の回復及び内需に後押しされてプラス成長を維持している。特に金属生産及び電機部門が生産の前期比での伸びに貢献している。

2. 雇用率及び賃金

8月の雇用率はわずかに上昇し（季節調整後で0.1%増）、前年同期比での伸びは2%に留まった。鉱工業及び商業部門は実質的に停滞しているが、サービス部門では好調な動きが維持されている。建設部門の雇用率は、引き続き若干の減少が見られる。9月の失業率は、季節調整前の登録ベースで0.12%下落して12.44%となった。8月の前年同期比での賃金の伸びは2%から1.8%に減速し、前月比での平均賃金は季節調整後で0.1%減少している。8月の平均名目賃金は796.4ユーロであった。

3. 物価

9月の消費者物価指数は、前年同期比で0.1%の下落、前月比では0.1%とわずかに上昇した。9月の前年同期比での下落率の縮小は、燃料を除く鉱工業製品の価格上昇の若干の加速及びエネルギー価格の下落に歯止めがかかったことが影響した。食料品及びサービス価格の動きは前月からの変化はなかった。

4. 貿易

8月の商品輸出の前期比での減少は実質で7月の1.4%減から0.4%減と歯止めがかかった。これまで特殊な事情により打撃を受けていた部門が、輸出下落の緩和に大きく貢献しており、例えば、停止されていた投資の再開後、輸出が回復した石油化学工業等が挙げられる。8月の商品輸入の前期比での減少は実質で7月の4%減から3.6%減と歯止めがかかった。石油精製部門への輸入は、依然として標準的な水準を下回っている。8月の季節調整前の貿易収支は2億3540万ユーロの黒字となった。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

